

就職試験の横技(面接の助け)

基本は、面接する人間の気持ちになって準備する
<準備段階>

1. 面接と履歴書・経歴書は関連している。
(面接で質問しやすい経歴書の作成が大切)
経歴の中で、質問を受けたい部分を強調：準備しやすい
2. 面接者の不安を除去することを考える
2-1 どのような不安があるか
能力的な不安：まず戦力になるか？
不足した能力を自分で補えるか？(勉強する力があるか？)
人間性：他の人との協調性、
対話能力が基本、その後性格面(取仕切り屋、指示待ち、弱すぎてもNG
強すぎてもNG相手の要求を掴む)、周囲に気配りができるか？
新しいことへの適応能力：職場に直ぐなじめるか？
新しい道具を直ぐ使えるようになるか？
やる気：腰掛気分か、ずっといるつもりか？
一般には長く勤める意識を示す。しかし居座りの
イメージでは逆効果
3. 準備充分は大切だがこだわってはいけない
シミュレーションは大切だが、シナリオどおりにこだわるのは行かない。
練習しても、それを忘れて自然にしゃべるようにする。

<面接段階>

4. 不安の対策
能力面1(知識)：自分のできることを並べるより、1,2の強調点を言い、
後は直ぐに勉強できる身につきますという。沢山言っても相手は忘れる。
大事な能力は、調べる能力(本、Webの活用)、人に聞くときも
下調べをして要点を聞く。このような配慮が必要。
また今までの自分の仕事、学生時代の経験で仕事に生かせそうなものは
直接そのままではないが、応用が利くという風に表現してPRする。

能力面2(対話)：人との対話の能力は重要、これは面接時点での質問に
正確に応じているかで評価される、自分の言いたいことだけ言ってはいけ
ない。
面接官に話の途中で割り込まれても、冷静に対応する。
ある程度のテンポも大切だが、相手の言うことを理解してから返事すること。

人間性：まず周辺への気配りが大切。面接は、待っている時間から始まっている。
(会社の玄関前から始まっている)
性格面は、”芯は強いが、人のいうことを聞く。
やるべきことは頑張ってやり遂げる。
が、他人の助けも上手に借りる。”
この柔軟性を示せたら良いのでは。

適応能力：これは今まで自分がどのように新しい職場・学校その他に適応したか、
を簡潔にしたらい。

やる気：この一つの例として、資格習得がある。某ソフトハウス社長の言葉
”情報処理技術者の資格自体は直接仕事に役に立たないが、当社を
受ける為にこの資格を取った。と聞いて意気に感じて採用した。”
但し、この資格が簡単すぎると、会社をばかにしていると見られて
逆効果の可能性もある。
5. 最後に
相手の顔を良く見る。自分に自信をもつ。人間は、自分の思っている
以上の力が潜んでいる。

6. 補足

6-1 過去の栄光に酔っている話は、単なる自慢

過去の教訓はキャリアとして重要

〈例〉XX競技で全国大会に出場2位：それがどうしたの

この時の訓練方法を応用して、ピアノも直ぐに上手になった。

だから、新しい仕事でも必要事項は直ぐに身につけることができる。

→何か説得力が出てきた。

6-2 長所と欠点は紙一重

”集中力がある。熱心にやり遂げる。”は長所だが、”はまりやすい。執着する”は、短所になる。この時、”はまったら冷静に見て、反省するように気をつけている。”

このような、一言で相手は安心する。

6-3 声の出し方

呼吸方法を腹式呼吸にしたら、声の出し方が安定する。力強い声で人が安心する。

肛門を締めて腹に力をいれて呼吸する。この繰り返しで落ち着く。

精神を安定させるには、息を吐いた後で、少し時間を置いてから吸う。

6-4 面接で目立つタイプ

右斜め45度目線、左脳にある言語情報をただ読み上げようとする場合に、このような症状が出てくる。